

# きいこ ぼのど うちも

教育行政の現場から  
“学び”的現場へ

2018  
6.24  
(日)

前文部科学事務次官

## 前川喜平氏講演会

「こども・いのち・きぼう」

-教育行政の現場から“学び”的現場へ-

【開催日時】● 6月24日(日)  
開場12:00 開演 13:00~16:00

【会場】● 世田谷区民会館 大ホール  
(東京都世田谷区世田谷4-21-27)

きいこ  
ぼのど  
うちも

6.24 受付済

●受付済みシールを  
胸の分かりやすい場  
所に貼ってください。  
入場・再入場の際に  
必ず必要となります  
ので、最後までなく  
さないようにご注意  
下さい。

### 【本日のプログラム】

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| 12:00~                         | 開場                |
| 13:00~                         | 開演:呼びかけ人あいさつ      |
| 13:15~14:45(90分)               | 《第一部》前川喜平さん講演会    |
| 14:45~15:00(15分)               | 一休憩               |
| 15:00~16:00(60分)               | 《第二部》前川さんトークセッション |
| ●ナビゲーター/星野弥生(世田谷こどもいのちのネットワーク) |                   |
| ●登壇者/保坂展人(世田谷区長、ジャーナリスト)他      |                   |

# はじめの あいさつ

ごくほつとうな発言をしているからこそ、いまや「時の人」となった。

前文部科学事務次官の前川喜平さんに世田谷に来ていただくことになりました。

前川さんは「現場」を大切にする人です。宮城県の行政課長をしていた時に、

自分の戒めとして作ったという三つの標語の中で、

<教育行政とは、現場から出発して現場に帰着する行政である。>

(「これからの日本、これからの教育」と述べておられます。

第一部では、前川さんが文科省官僚として心血を注いで作られた仕事。

現場とは何だったのか。また、退職に至るまでの経緯を率直に語っていただきます。

そして退職後の今の「現場」である夜間中学校にボランティア講師として入られた動機や、

その根底にある教育に対する心持ちなどをうかがえたらと思います。

第二部は、「もっとききたい」。世田谷での現場からの発言・質問を手がかりに、

希望のある「これからの日本、これからの教育」について、現役の学生さん、教師、

子育て中のお母さんにもご登壇いただき、保坂区長も交えながら、

前川さんとの双方向の語りの場としたいと思います。

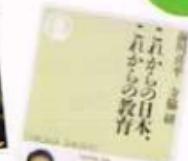


語  
り相  
前川喜  
会場で  
いあすん  
いすれど  
じめの  
よを

講師  
書籍



前川喜平



※本日、ロビーの物販コーナーにて、こちらの書籍  
を販売しております(開演前、休憩時間のみの  
販売になります)。



第一回  
講師  
紹介

前川喜平 (まえかわ きへい)さん

1955年奈良県生まれ。79年東大法医学部卒・文部省(当時)入省。宮城県教委行政課長等を経て2001年文科省初等中等教育局教科員課長、05年義務教育国庫負担金廃止反対をブログで発信。大臣官房統括審議官・官房長・初等中等教育局長・文部科学審議官を歴任。16年文部科学事務次官。17年1月退官。7月国会参考人として加計学園献医学部新設の経緯を証言。著書「これからの日本、これからの教育」(寺脇研さんとの共著)もしくは新書)、「腹面背従」(毎日新聞出版)。

# ことども・いのち・きぼう ～教育行政の現場から“学び”的現場へ～

呼びかけ人からの  
メッセージ  
稻野茂正(イナセン)  
世田谷こどものネットワーク

## ●いい題が決まった。

講演会の題が「ことども・いのち・きぼう」と決まった。「いのち」(世田谷こどものちのネットワークの略)の原点に戻った題だと思う。20年以上前「いのち」の名前を決める時に、提唱者の故半田悌三さんは「いのち」という言葉にこだわっておられた。今回の講演会で「いのち」という言葉が入った。半田さんの根底には無教会系のキリスト者としての矜持がある。「いのち」への畏敬の念がある。私も齢を重ねてくると「いのち」という言葉の重さを感じてくるようになった。

去る2018年1月26日に日大文理学部で行われた前川喜平さんの特別講義に私が参加し、前川さんに世田谷での講演をお願いした。じっくりとお話を伺うつもりでいた。ところが急遽1,000人規模の集会を目指すことになった。当初は拡大して実行委員会がどのような方向になるのか不安があった。実際には、実行委員会を立ち上げてみると「いのち」の取り組みに共感し、講演会の題を「ことどものちのネットワーク」の中の「ことども」「いのち」に感銘を受けた委員の方々がおられ、それに他の委員が「きぼう」を加えることを提案され、このような講演会の題となつたのである。単に人集めのイベントにせずに初心を忘れない会にしたいと思う。

## ●今日の講演に期待すること

前川さんは文科省次官を退職した後、黙っておればそれ相当の処遇が待っていた筈だ。ところが「あったものを、なかつたことにできない」として既然と「総理のご意向文書」の存在を認めた。今まで文科事務次官を退いた人がこの様な発言をすることがあつただろうか。

それは、前川さんの勇気であるとともに、私たちの国の政府が今までとは全く別の段階に入ったことを意味すると私は考える。文科事務次官として政府の中核にいがら、人間として見過ごすことができない行政の私物化の現場に直面し、それを告発されたのではないだろうか。もしかしたら安倍晋三氏が退場しても、この危機的状況は続くではないだろうか。前川さんに生の言葉で語って頂きたいと思う。

一方、前川喜平さんと寺脇研さんとの対談の本「これから日本の日本、これからの教育」(ちくま新書)には教育行政官としての前川さんの多くの思いが語られている。前川さんは宮城県の行政課長をしている時に、自分の戒めとして三つの標語を作る。「第三に『教育行政とは、現場から出発して現場に帰着する行政である』。一番だいじなものは現場にしかないわけで、そこで学んでいる人たち、教えている人たちの、人間的なふれあいの中にしか、教育はないわけです」と述べた。この文脈でいえば教育行政官は現場ではない。現場をサポートする仕事である。現場を大切にする人だからこそ、文科事務次官退官後にあえて夜間中学校にボランティアの講師として入られたのである。文部省行政に携わったものとして最後の最後まで責任を持ちたいと現場に入られたのではないだろうか。現場に対する憧憬なのか、聞いてみたい。

前川さんは覚悟を決めて行動しておられると思う。その根底には半田さんと同じ「いのち」への畏敬の念があるのではないだろうか。その根っこにあるものを是非聴いてみたいと思う。

ことどもの  
いのちの  
ネットワーク  
ビル

1996年、区内中心に「ことどもの現場」に関する  
グループ・個人が、「いじめなどことどもの問題を  
地域で考えあい、子どもにとってよりよい環境を  
作るべく発足、初代代表は故・半田悌三氏、  
初代事務局長は保坂辰人氏、年に数回、子ど

もや教育、平和、環境などに関わる学習会を行っている他、状況に応じ、教育委員会などへの提言を発信しています。分科会「もっと語ろう  
不登校」も毎月開催、年会費3000円(学習  
会参加費、無料)、ご入会、随時受け付けています。

【主催】

前川喜平さんを世田谷によぶ実行委員会

【呼びかけ】

世田谷こどもいのちのネットワーク

【賛同団体】

世田谷市民運動いち

世田谷区教職員組合

世田谷地区労働組合協議会

福島のこどもたちとともに・世田谷の会

新日本婦人の会 世田谷支部

世田谷区労働組合総連合

市民連合 めぐろ・せたがや

世田谷の教育を考える会

せたがや教育フォーラム

NKM&MePuci

フリースクール僕んち

今とこれからを考える一滴の会

人の泉・オープンスペース"Be!"

I女性会議 世田谷支部

代沢九条の会

せた連

ぼろじゅうくⅢ

地球の子ども新聞

世田谷こども守る会

ぶんぶんフィルムズ

羽根木割烹着一す

世田谷1000人委員会

優れたドキュメンタリー映画を観る会

生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会

(順不同)

本日はご来場、誠にありがとうございました！

